

平成 30 年度札幌市子どもに関する実態・意識調査結果（速報）

<調査概要>

1 調査期間 平成 30 年 12 月 18 日～平成 31 年 1 月 11 日

2 調査対象
(回収結果)

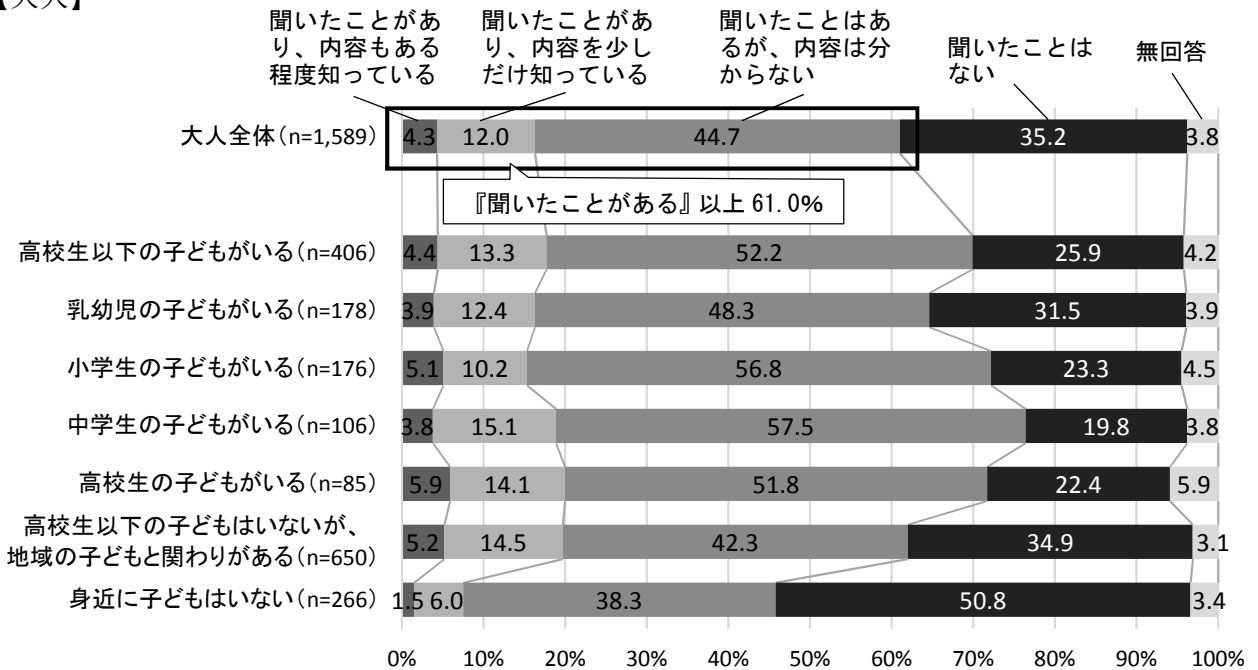
| | 対象数 | 回収数 | 回収率 |
|------------|--------|-------|-------|
| 大人（19 歳以上） | 5,000 | 1,589 | 31.8% |
| 子ども | 5,000 | 1,662 | 33.2% |
| 10-12 歳 | 1,623 | 674 | 41.5% |
| 13-18 歳 | 3,377 | 988 | 29.3% |
| 合計 | 10,000 | 3,251 | 32.5% |

<主な調査結果>

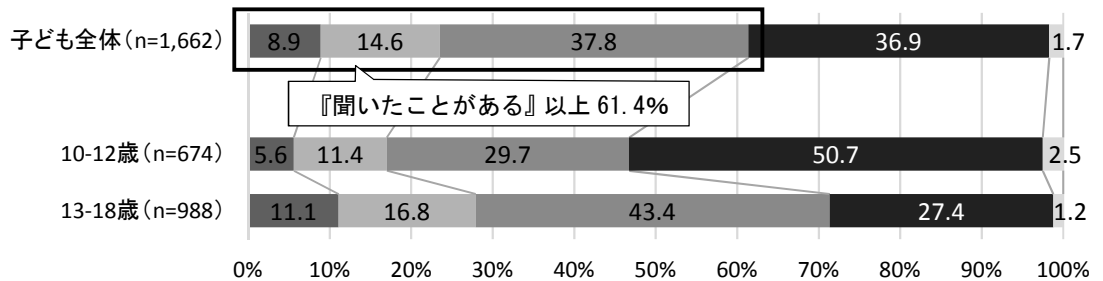
1 広報（子どもの権利の認知度等）

(1) 子どもの権利の認知度（大人問 18、子ども問 20）（単一回答）

【大人】



【子ども】

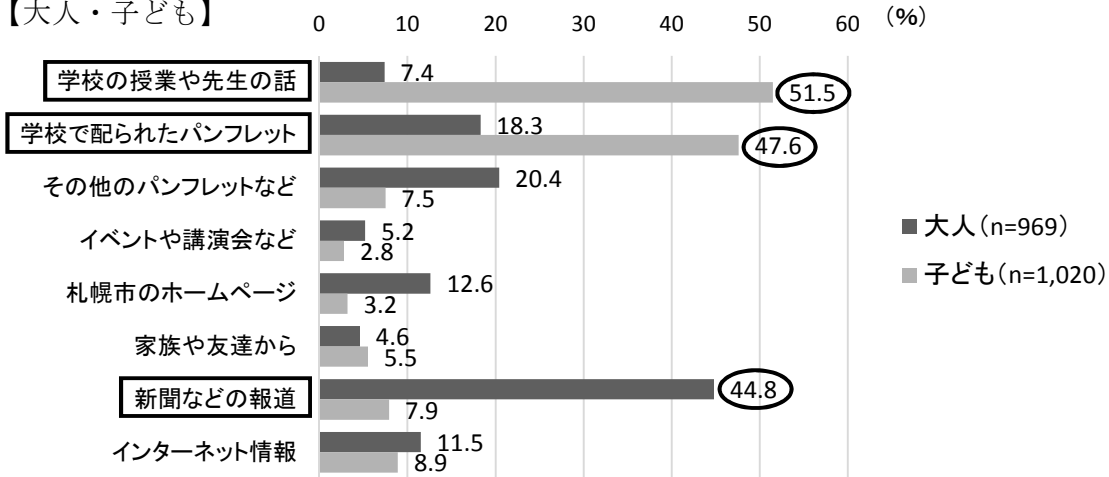


○子どもの権利の認知度（「聞いたことがある」以上）は、大人 61.0%、子ども 61.4%と、いずれも前回調査から上昇（H25 大人 54.0%、子ども 40.2%）。

○大人は学齢期の子どもがいる保護者の認知度が高く、子どもは 10-12 歳より 13-18 歳の方が高い。

(2) 子どもの権利を何で知ったか (大人問 19、子ども問 21) (複数回答)

【大人・子ども】

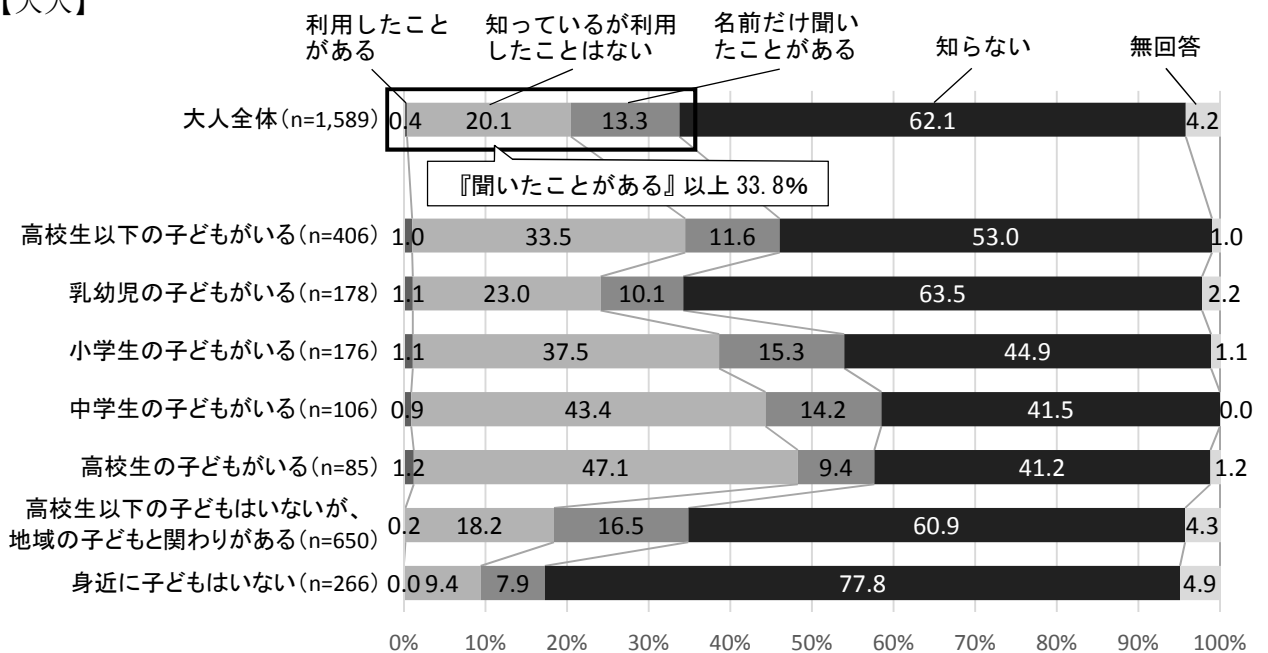


○子どもへは学校を通じた啓発効果大きい。

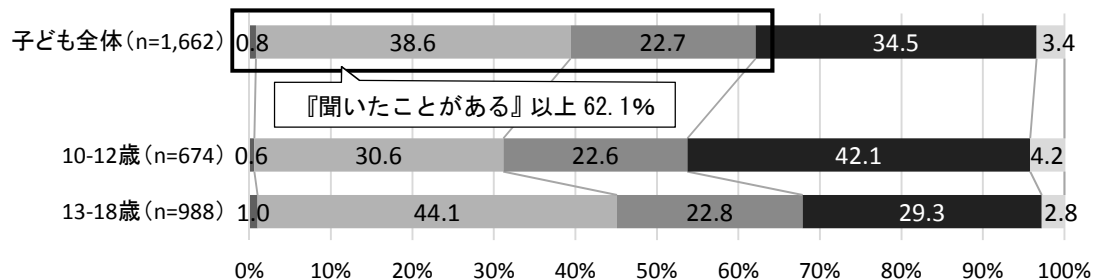
○保護者は子どもを通じて学校から情報を得る機会が多く、子どもと関わりが少ない大人は新聞などの報道からが多い。(※クロス集計結果も踏まえた傾向)

(3) 子どもアシストセンター(札幌市子どもの権利救済機関)の認知度(大人問 15②、子ども問 16②)(単一回答)

【大人】



【子ども】

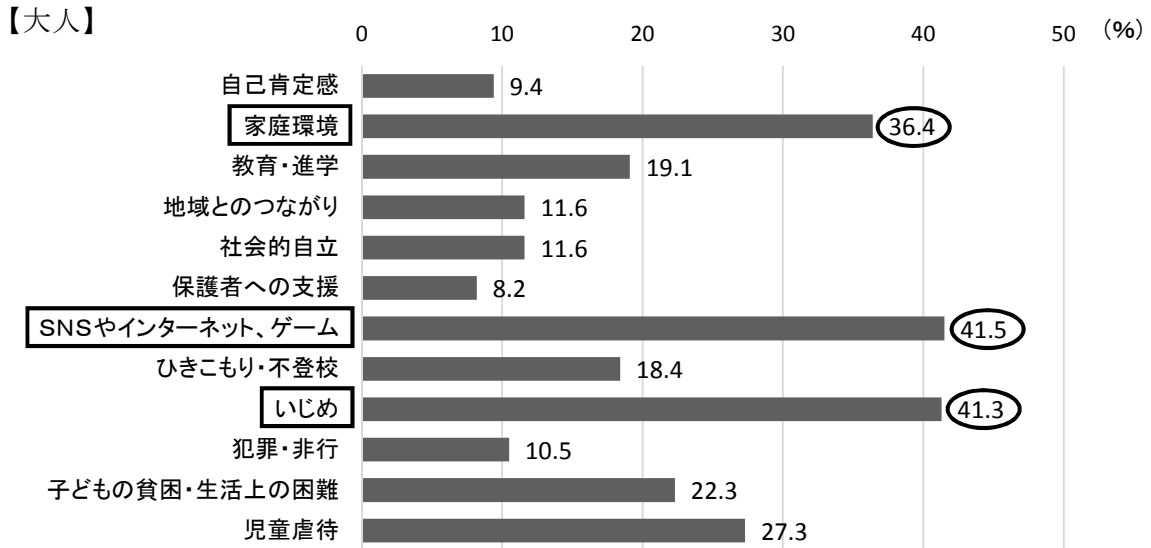


○子どもアシストセンターの認知度(「聞いたことがある」以上)は、大人 33.8%、子ども 62.1%と、いずれも前回調査から低下(H25 大人 38.8%、子ども 77.1%)。

○大人は学齢期の子どもがいる保護者の認知度が高く、子どもは10-12歳より13-18歳の方が高い。

2 大人から見た子どもの印象・意識

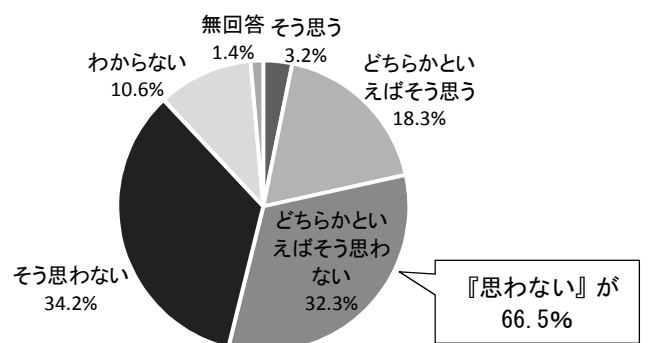
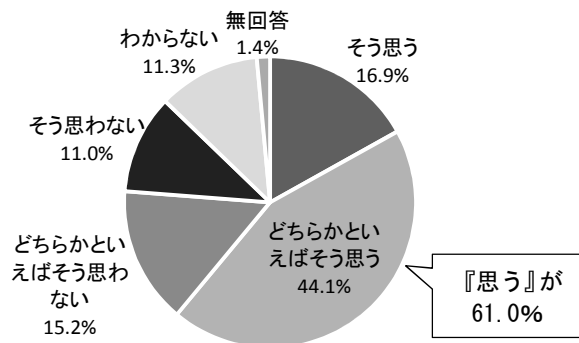
(1) 子どもを取り巻く課題として特に重要と思うもの（大人問4、n=1,589）（複数回答）



(2) 子どもの印象（大人問5、n=1,589）（単一回答）

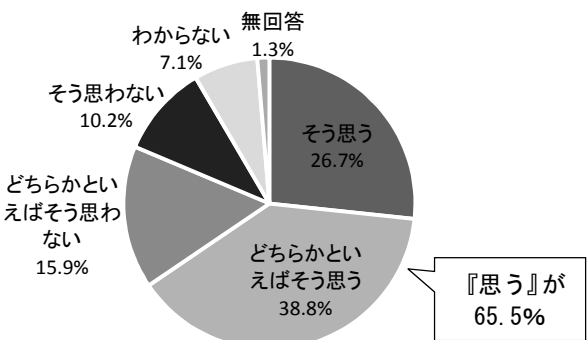
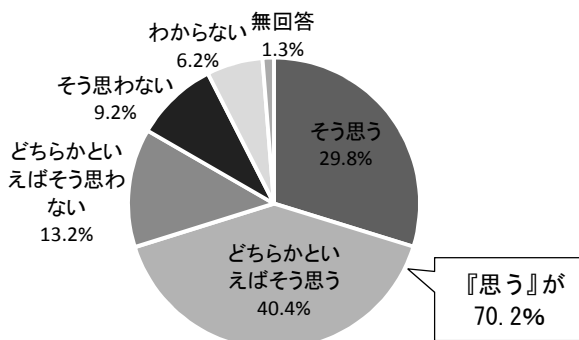
【大人】 不安や悩みを抱えこみやすい

【大人】 直面した課題に自分で対応する力をもっている



【大人】 共働きなどで保護者と過ごす時間が足りない

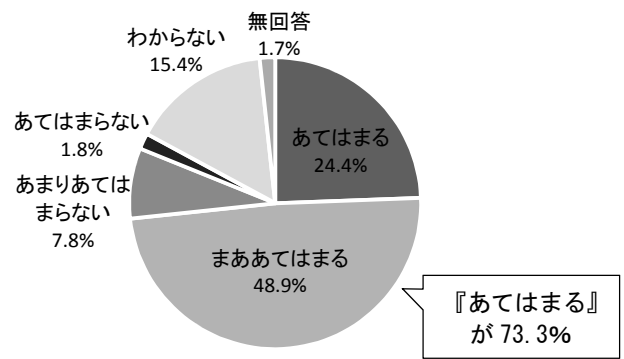
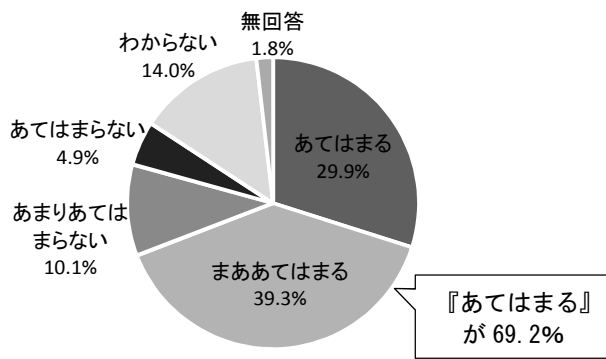
【大人】 家庭や学校以外に大人と関わる機会が少なすぎる



- ネットコミュニケーションやいじめ、保護者・大人との関わりの少なさへの課題意識がうかがえる。
- 大人と子どもの関わりが希薄化しているという意識の中、子どもに対しては不安や悩みを抱え込みやすいなどのイメージがあり、周囲の大人から子どもが見えにくくなっている傾向。

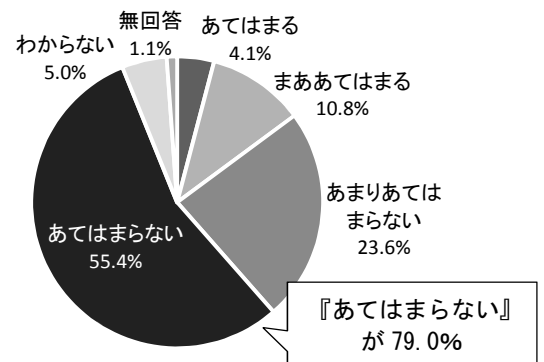
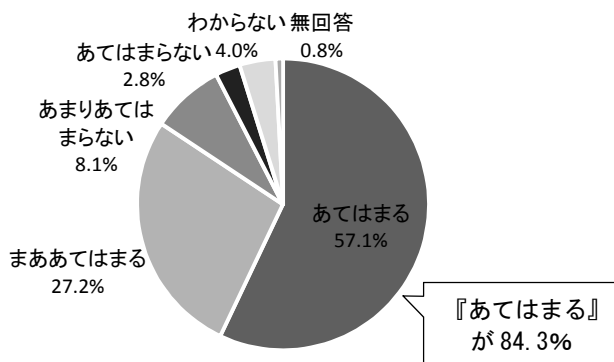
(3) 大人(保護者)の子どもへの関わり(大人問7、n=1,589)(子ども問12、n=1,662)(単一回答)

【大人】不安な様子をしていたら声かけする 【大人】できるだけ子どもの考えや意見を理解し、尊重する



【子ども】困ったときはなぐさめたり、背中を押してくれる

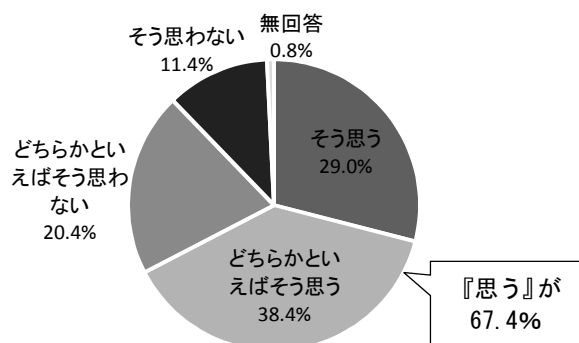
【子ども】自分の意見や考えをあまり聞いてくれない



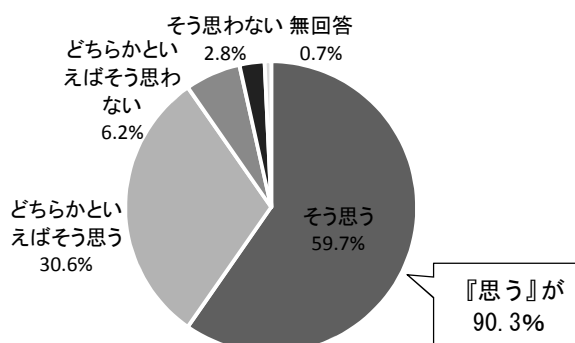
○大人(保護者)の子どもへの関わり方としては、子どもの主体性を大事にし、できるだけ子どもに考えさせながら、必要であれば声をかけ、助けるといった姿勢の大人が多い。
 ○子ども側も、大人(保護者)は自分の意見や考えを聞いてくれるという割合が高く、大人と子どもで同様の傾向が見られる。

3 子どもの自己評価（自己肯定感等）（子ども問10、n=1,662）（単一回答）

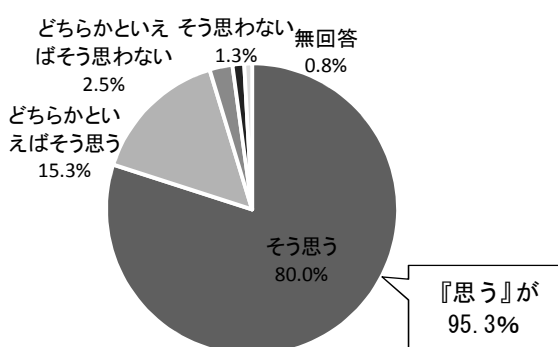
【子ども】自分のことが好き



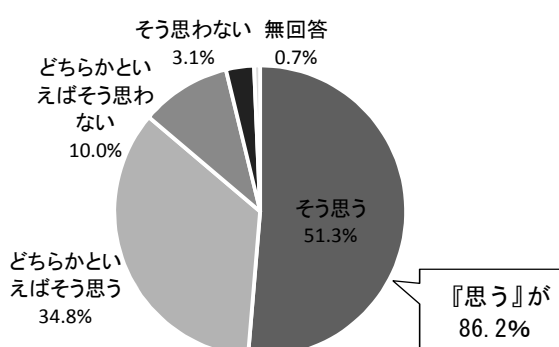
【子ども】自分を大切に思ってくれる人がいる



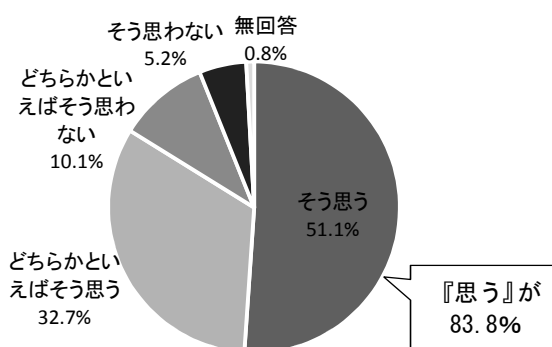
【子ども】何かをやり遂げてうれしかったことがある



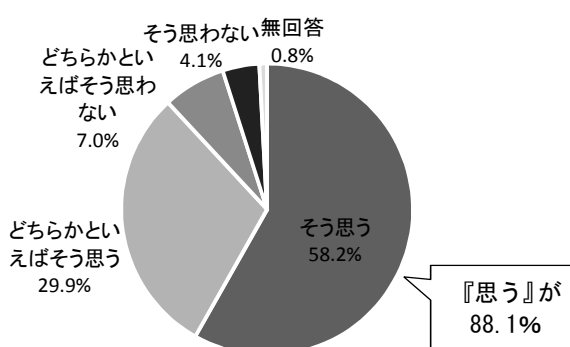
【子ども】ものごとを調べたり考えたりすることは楽しいと思う



【子ども】自分の考えや意見を聞いてもらってうれしかったことがある



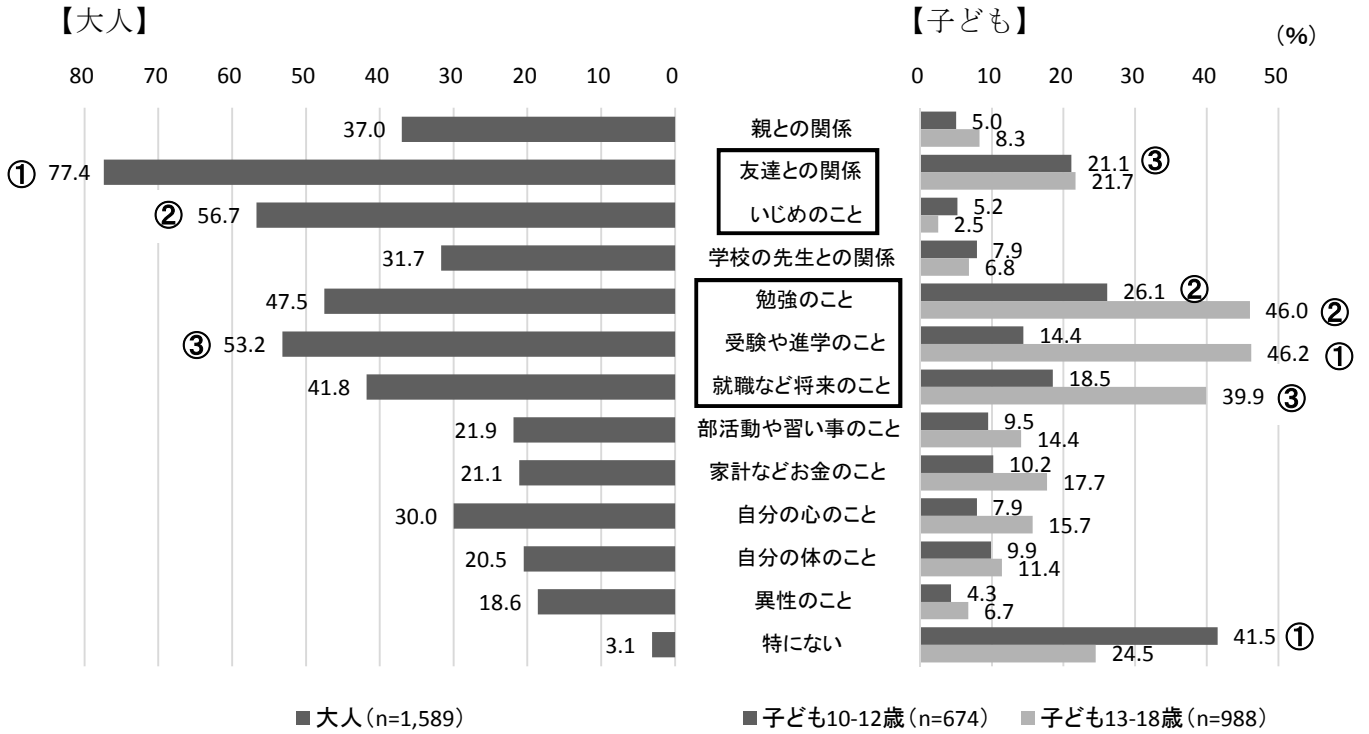
【子ども】困ったときには人に相談してみるのも大事だと思う



- 自分のことが好きだと思う子どもの割合は67.4%と、前回調査から上昇(H25は65.4%)。
- 自己肯定感（「自分のことが好き」）に比べて、周囲から大切にされているという受容感や何かをやり遂げてうれしかったなどの達成経験、相談などによる問題解消イメージの割合はより高い。
- 自己肯定感、受容感、達成経験、問題解消イメージなど、自己評価の項目は相互に連動している傾向が見られる。（※クロス集計結果も踏まえた傾向）

4 子どもの安心

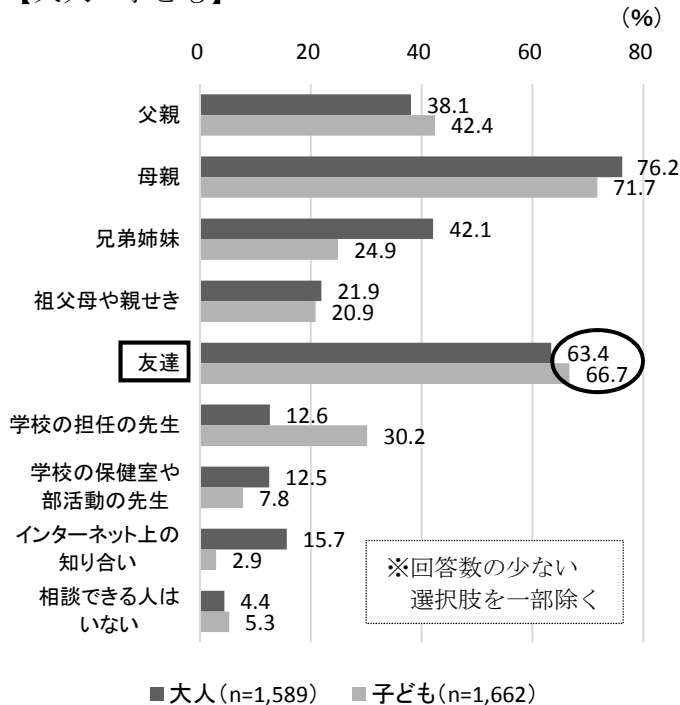
(1) 子どもの不安・悩み (大人問 13、子ども問 13) (複数回答)



(2) 子どもの相談相手

(大人問 6、子ども問 14) (複数回答)

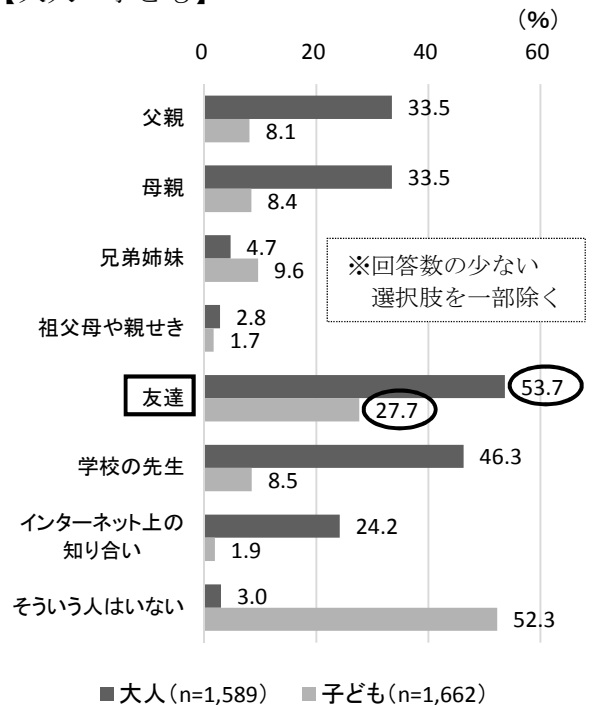
【大人・子ども】



(3) 子どもを言葉や力で傷つけやすい人

(大人問 14、子ども問 15) (複数回答)

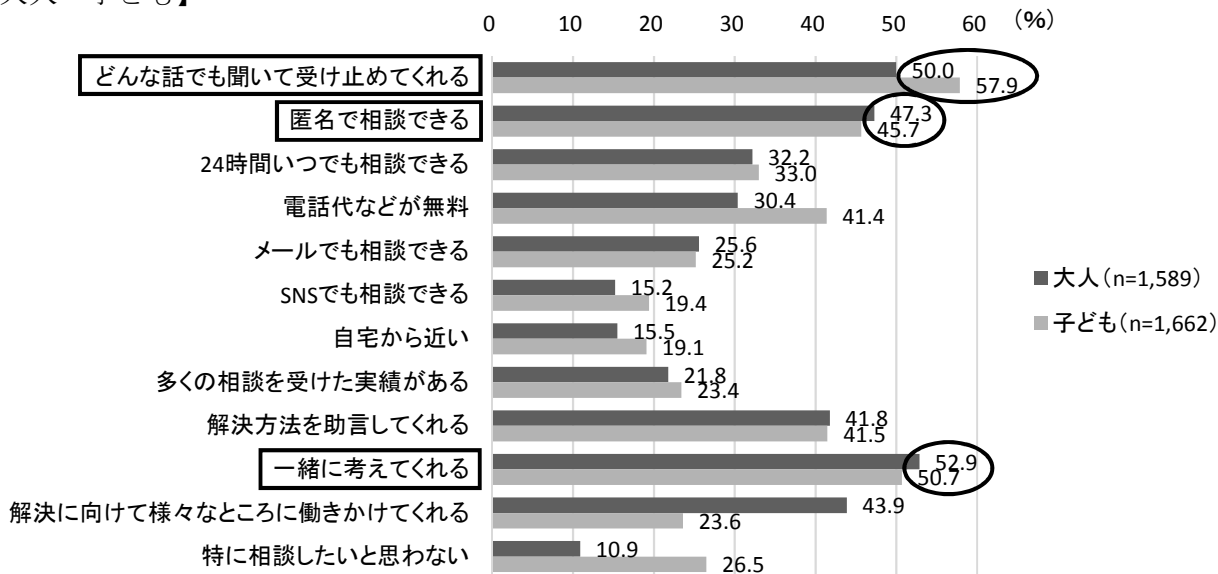
【大人・子ども】



○大人は子どもの友達関係やいじめなどへの懸念が強く、子ども自身は友達関係に加え、中高生になると勉強・進学等の悩みを抱える傾向にある。
 ○子どもの相談相手、子どもを傷つけやすい人ともに友達が比較的多く、友達の存在の大きさがうかがえる。

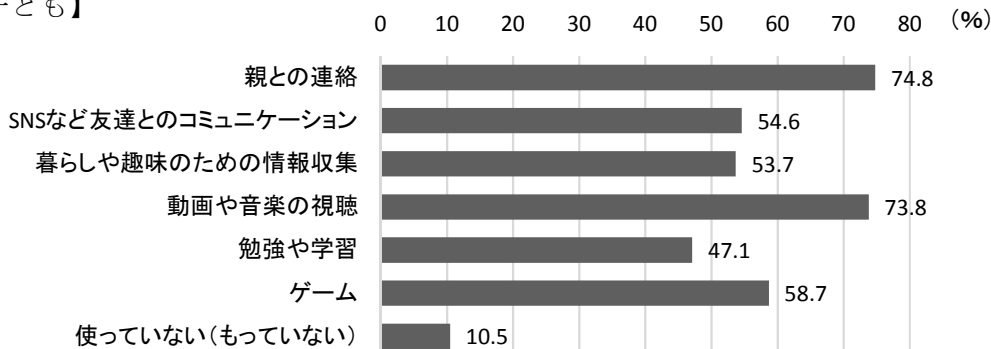
(4) 相談機関に求めること (大人問 16、子ども問 17) (複数回答)

【大人・子ども】



(5) スマホやパソコン等の利用のしかた (子ども問 18、n=1,662) (複数回答)

【子ども】

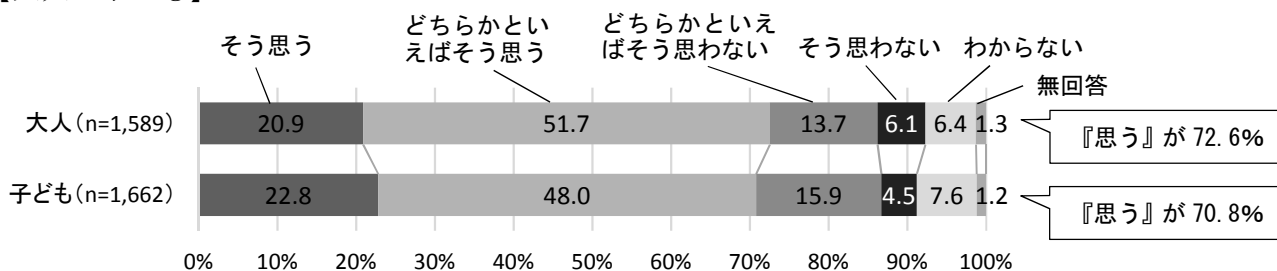


○相談機関へは、相談の手段よりも対応姿勢に関する要請が多く、話を聞いて受け止め、一緒に考えてくれる寄り添い型の相談対応が求められている。
○情報収集・コミュニケーション手段としてのスマホ等の利用が増えている。

5 子どもの体験の機会

(1) 子どもが自然・社会・文化体験をしやすい環境だと思うか (大人問 11、子ども問 6) (単一回答)

【大人・子ども】

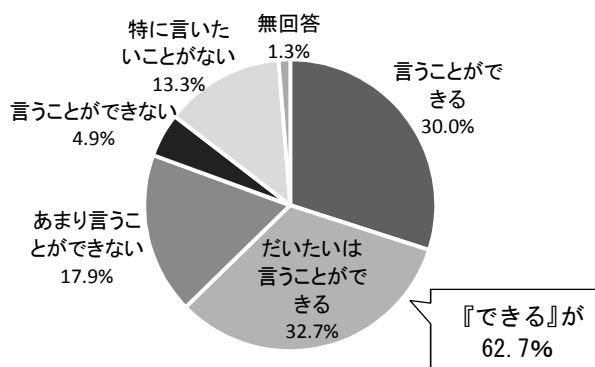
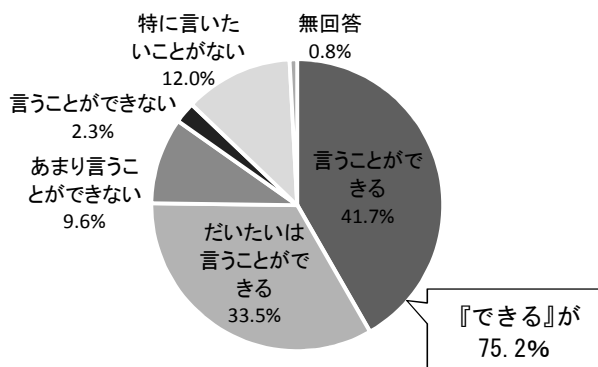


○子どもが自然・社会・文化体験をしやすい環境だと思う人の割合は、大人 72.6%、子ども 70.8%と、いずれも前回調査から上昇 (H25 大人 54.9%、子ども 59.3%)。
○自然・文化・スポーツ体験は比較的あるが、社会体験や地域との交流があまりなく、今後もっと必要との傾向。(※大人問 10、子ども問 5 の個別質問も踏まえた傾向)

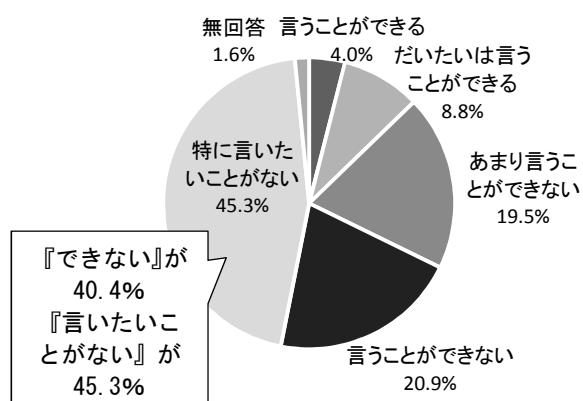
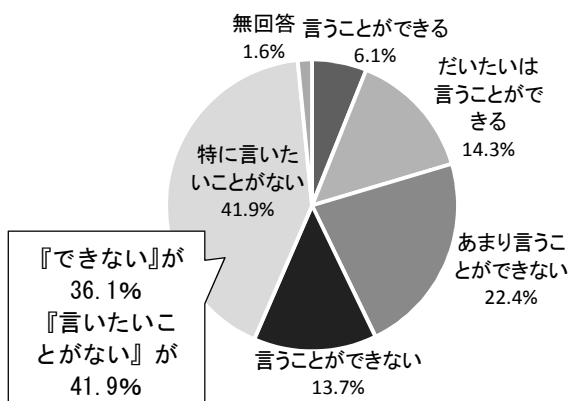
6 子どもの参加・意見表明

(1) 自分の考えや思いを言える機会 (子ども問9、n=1,662) (単一回答)

【子ども】家庭における大事な物事やルール 【子ども】学校行事・イベントの企画や運営



【子ども】地域で行われている行事などの取組 【子ども】札幌市政(札幌市のまちづくり等)

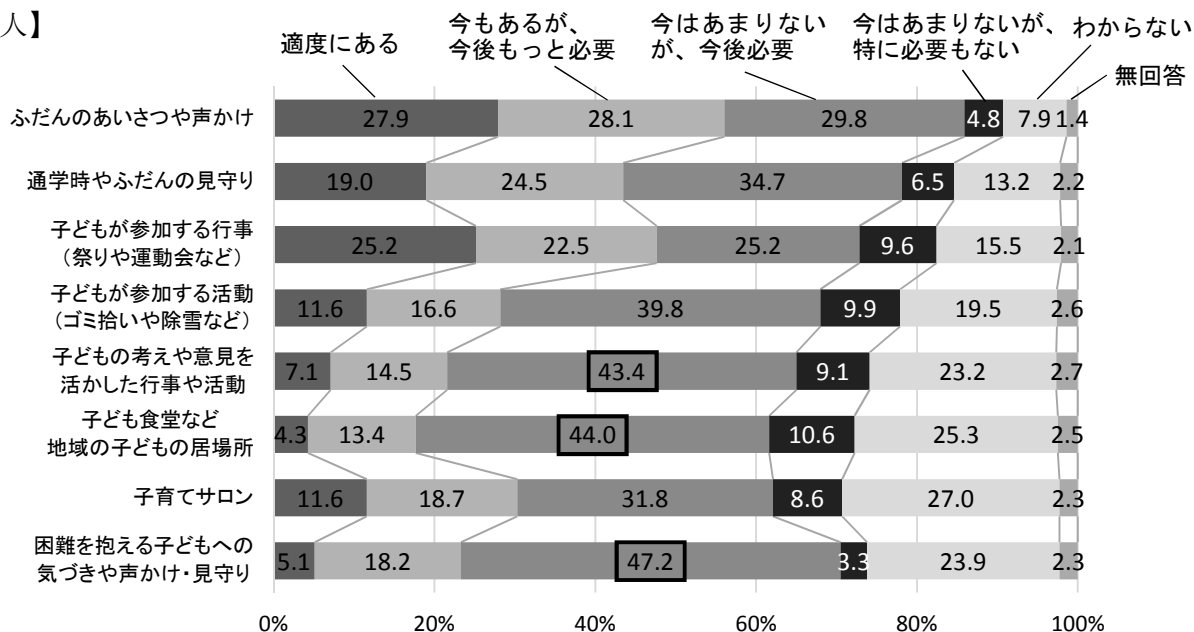


○家庭や学校における意見表明の機会は比較的あるが、地域や札幌市政については、「言うことができない」や「特に言いたいことがない」の割合が高い。

7 地域との関わり

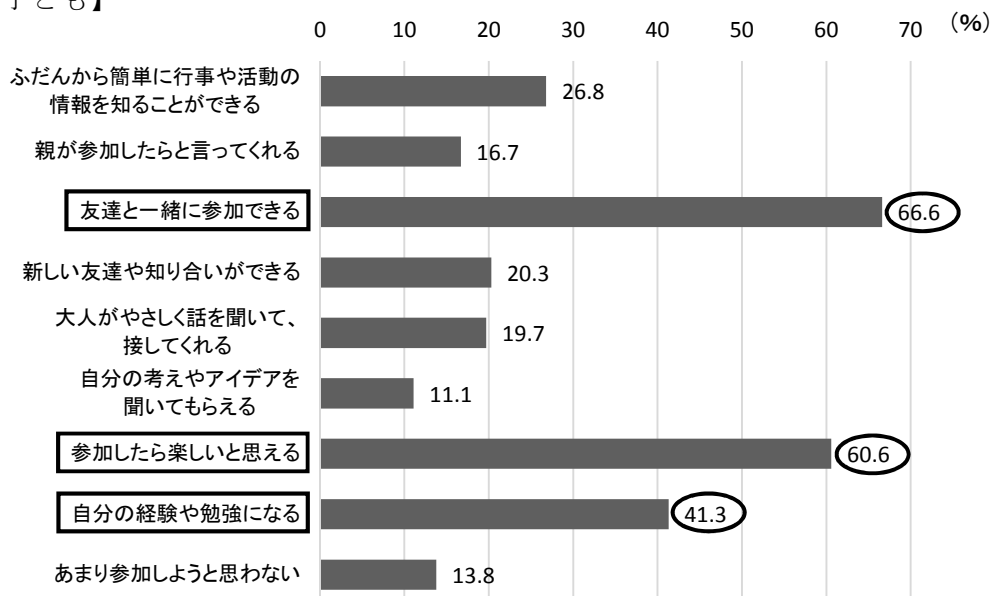
(1) 地域と子どもの関わり (大人問9、n=1,589) (単一回答)

【大人】



(2) 地域の行事や活動に参加しようと思う理由 (子ども問8、n=1,662) (複数回答)

【子ども】

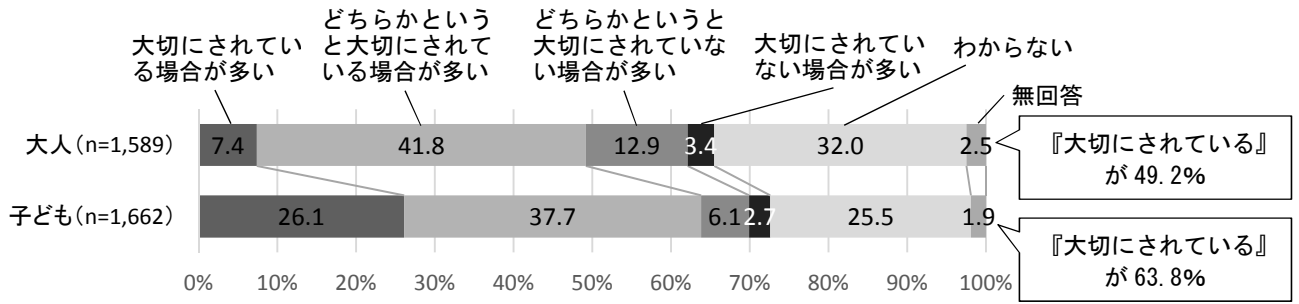


- 地域と子どもの関わりについては、困難を抱える子どもへの気づきや子どもの居場所、子どもの考えを活かした取組などがあまりなく、今後必要との傾向。
- 参加しようと思う理由は、楽しいと思える、経験や勉強になるなどの回答が多く、子どもが楽しみ、学びながら参加できる工夫等が求められている。

8 権利の保障の状況

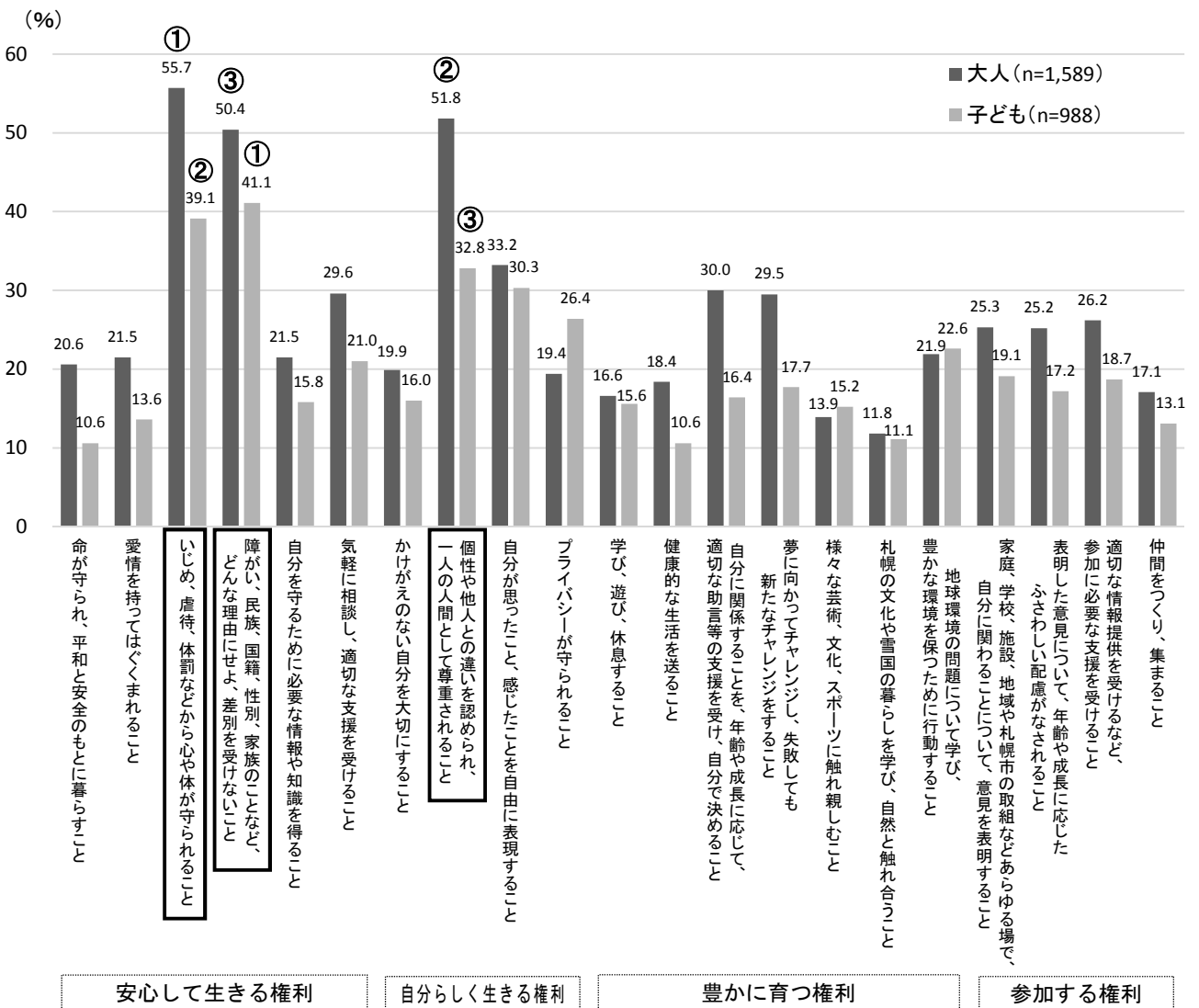
(1) 子どもの権利が大切にされていると思うか（大人問 22、子ども問 23・24）（単一回答）

【大人・子ども】



(2) 大切にされていないと思う権利（大人問 21、子ども(13-18歳)問 23）（複数回答）

【大人・子ども】



○子どもの権利が大切にされていると思う人の割合は、大人 49.2%、子ども 63.8%と、前回調査から大人は横ばい、子どもは上昇（H25は大人 49.1%、子ども 57.0%）。

○大切にされていないと思う権利については、大人・子どもともに、いじめ・虐待や差別など人権侵害への懸念が大きく、お互いの違いを認め尊重し合う姿勢が足りないとの意識もうかがえる。